

			作成日：令和4年 4 月 1日	
教科	学年	科目名	単位	記号番号
数 学	2 年	数 学 B	2	
学習目標	ベクトルでは平面及び空間における算法について学び、成分での表示から内積の定義さらに計算法則を理解させ、それらを図形の問題に応用に利用できるようにする。 数列においては等差数列・等比数列をはじめ基本的な数列とその和について学ぶ。			
学 期	学 習 項 目 (単元名)	学 習 内 容 (ねらい)		
1 学 期 (22) 時間	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 第2節 いろいろな数列 6. 和の記号 Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	数列の意味を理解させ、等差数列および等比数列の一般項や和の公式を導き、それらを用いて一般項や和が求められるようにする。 Σ の性質を理解させ、いろいろな数列の和が求められるようにする。 階差数列を理解させ、もとの数列が求められるようにする。漸化式によって数列が定められることを理解させる。		
2 学 期 (26) 時間	第3節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	漸化式の意味を理解させ、一般項を求められるようにする。 数学的帰納法の意味とその扱い方を理解させる。 平面上のベクトルについて、その意味、相等、加法、減法、実数倍について理解させる。 ベクトルの成分表示、内積、平行と垂直をとりあつかい、演算等を理解させる。 位置ベクトルや内積を用いて図形の性質を考察できることを理解させる。 ベクトルを用いて直線や円などの平面図形を表現できることを理解させる。		
3 学 期 (22) 時間	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用	空間座標を定義し、空間の点は3つの数の組で表されることを理解させる。 空間のベクトルおよびその成分や内積を定義し、平面上のベクトルと同様の性質が成り立つことを理解させる。 空間における位置ベクトルを定義し、空間図形の問題に応用できるようにする。		
評価方法	定期考査の成績および提出物、さらに授業に取り組む姿勢を評価する。			
教科書 教材名	教科書：数研出版 新編 数学B 問題集：数研出版 S t u d y - U p ノート数学B			